

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2012年 6月

「神の啓示 (1)」 「恵みの契約」 「恩恵期間の終了」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「神の啓示 (I)」

4

朝のマナ

「恵みの代価」

7

神の驚くべき恵み

現代の真理

「恩恵期間の終了」

38

最後の出来事

力を得るための食事

「ココナッツスノーボール」

46

お話コーナー

「最高の理想」

48

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2012年5月31日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：comstock.com p.1; Gettyimages p.1;

Sermonview p.9

神からの隔離の杯

救い主は弟子たちとつれだつて、ゆつくりゲッセマネの園の方へ進んで行かれた。……いまイエスは、神のささえの臨在という光からしめ出されているようにみえた。……罪が非常に恐るべきものに見え、イエスの負われねばならない不義の重荷があまりに大きいので、イエスは、そのため天父の愛から永遠にしめ出されるのではないかという恐れにさそわれる。罪とがに対する神の怒りがどんなに恐るべきものであるかを感じて、イエスは、「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである」と叫ばれる(マタイ 26:38)。……

キリストは、罪のためにご自分が天父から隔離されつつあることを感じられた。深淵は広く、暗く、深かったので、キリストの精神はその前でおのいた。この苦悩からのがれるために、キリストは、神としての力を働かせてはならないのである。人間として、キリストは、人の罪の結果をお受けにならねばならない。人間として、キリストは、罪とがに対する神の怒りに耐えたまわねばならない。……

キリストは、天父とのつながりが切れたと感じられたとき、人としてのご自分の性質では、きたるべき暗黒の勢力との戦いに耐えることができず心配された。……この戦いの結果を目の前にして、キリストの魂は、神からの隔離という恐れに満たされた。もしキリストが罪の世の保証人となられるならば、隔離は永遠のものとなり、キリストは、サタンの王国と一体となり、ふたたび神と一つになることがおできにならないであろうと、サタンはキリストに告げた。しかもこの犠牲によって、何の益があるのだろうか。……

キリストが、人の魂のために払われる価について思いをめぐらしておられる姿を見なさい。苦悩のあまり、主は、神から遠くへ引き離されまいとするかのように、冷たい大地にすがりつかれる。……その青ざめたくちびるから、「わが父よ、もしできることでしたら、どうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」とのいたいたしい叫びがもれる。それでもなお主は、「しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい」とつけ加えられる(マタイ 26:39)。……(各時代の希望下巻 173～182)

あまりにもこのお方の魂にとって苦く思われ、取りのけて下さるようにと祈られた杯とは、世の罪の結果の神からの隔離の杯であった。……ご自身を犠牲にする以外に世は救われ得ないということが確認されたとき、このお方は、「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と言われた。キリストがご自分の祈りを御父にお捧げしたときに表された従順の精神が、神に受け入れられる精神である。……わたしたちはこのお方を自分たちの最高の信頼に足るお方として受け入れない限り、現世において、また永遠において、自分たちの利益を神におゆだねすることは決してできない。信仰が闇を貫くようにしよう。光のうちと同様に闇の中でも神と共に歩み、「約束された方は忠実である」との言葉を繰り返しなさい。(ビュール・アト・ハルト 1895年11月19日)

創造主にして命の与え主なるキリスト

「神の啓示 (I)」

『『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである』(コリント第二 4:6)。

墮落前、わたしたちの最初の両親の思いにかかる雲はなく、神のご品性についての彼らのはっきりとした見識をあいまいにするものはなかった。彼らは神の御旨に完全に一致していた。なぜなら、覆い、すなわち美しい光、神の光が彼らを取り囲んでいたからである。主は聖なる夫婦を訪れ、彼らにご自分のみ手のわざを通してお教えになった。自然が彼らの教科書であった。エデンの園で、神の存在が彼らを囲む自然のものの中に表されていた。園のすべての木が彼らに語りかけていた。神のみえざる物は、造られたものによって理解されており、神のとこしえの力や神格でさえもはっきりと認められていた。

しかし、神をこのように自然の中で理解することでできたのは事実であるが、その事実は墮落後、神の完全な知識が自然界のうちにアダムとその子孫に表されたという主張を支持することはない。自然は罪のない状態では人にその教訓を伝えることができた。しかし、不義は自然に損傷をもたらし、自然と自然の神の間に介入した。アダムとエバが決して自分の創造主に不従順にならず、彼らが完全な正直の道にとどまっていたならば、神を知り、理解することができたのであった。しかし、彼らが誘惑者の声を聞き、神に対して罪を犯したとき、天の無垢という衣の光は彼らを離れた。そして無垢の衣がなくなると、彼らは自分たちの身に神についての無知という暗い衣を巻きつけた。それまで彼らを取り囲んでいたはっきりとした完全な光は彼らの近づくすべてのものを照らしていた。しかし、天の光を奪われ、アダムの子孫は、もはや神の創造のみわざのうちにこのお方のご品性のあとをたどることができなくなった。

わたしたちが今日見る自然の事物は、エデンの美しさと栄光のかすかな概念しか与えない。しかしなお、自然界は、間違えようのない声で、神の栄光を告げている。自然の事物には、罪の傷によって損なわれているが、多くの美しいものが残っている。力において全能で、いつくしみと憐れみとまことにおいて大い

なるお方が地を創造された。そして、その損なわれた状態にあつてさえも、自然は巧みな大芸術者に関して真理を繰り返し教えている。この自然の書物の中に一色とりどりの繊細な、美しく香る花々の中に一神はわたしたちに間違えようのないご自分の愛を表現しておられる。アダムの違反後、神はすべての開くつぼみや咲いている花を損なうことも、あるいはその感覚に非常に心地よい香りを取り去ることもおできになった。のろいによって焼印を押されそこなわれた地において、いばらやあざみやとげのある植物や毒麦に、わたしたちは罪を責める律法を読むことができる。しかし、繊細な花の色や香りに、神がなおわたしたちを愛しておられること、このお方の憐れみがすっかり地から取り去られたのではないことがわかる。

自然は人類のための霊的な教訓に満ちている。花が死ぬのは、新しい命に芽吹くためである。そしてこのことにおいて、わたしたちは復活の教訓を教えられている。神を愛するすべての人は、再び、天のエデンで開花する。しかし、自然は、神の大いなる驚くべき愛の教訓を教えることができない。そこで墮落後、自然が人の唯一の教師ではなくなった。世が闇の中、とこしえの霊的な夜の中にいつづけることがないように、自然の神がイエス・キリストのうちにわたしたちに会われた。神の御子が御父の啓示として世に来られた。「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた」お方であつた（ヨハネ 1:9）。「キリストの顔に輝く神の栄光の知識」を眺めるのであつた（コリント第二 4:6）。

神のひとり子ご自身のうちに、天の神はわたしたちの人間の性質にまで身をかがめてへりくだられた。トマスの質問に、イエスは言われた。『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知つたであろう。しかし、今は父を知つており、またすでに父を見たのである』。ピリポはイエスに言つた、『主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さいれば、わたしたちは満足します』。イエスは彼に言われた、『ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかつていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわぎをなさつていられるのである。わたしが父におり、父がわたしにおら

れることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。』」(ヨハネ 14:6～11)。

人が学ばなければならない最も困難で屈辱的な教訓は、人間の知恵にたよるには自分自身が無能であり、正しく自然を読むとする彼自身の努力は必ず失敗するということである。罪は彼の見解を曇らせてしまった。そして彼自身では、自然を神の上に置かずには、それを解釈することができない。彼は自然の中に神、もしくは神の遣わされたイエス・キリストを識別することができない。彼は自然崇拜のために祭壇を立てたアテネ人と同じ立場にいる。アレオパゴスの評議所のまん中に立って、パウロはアテネの人々の前に、彼らの偶像礼拝と対照的に、生ける神の大権を提示した。

「アテネの人たちよ、あなたがたは、あらゆる点において、すこぶる宗教心に富んでおられると、わたしは見ている。実は、わたしが道を通りながら、あなたがたの拝むいろいろなるものを、よく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇もあるのに気がついた。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、いま知らせてあげよう。この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。また、何か不足でもしておるかのように、人の手によって仕えられる必要もない。神は、すべての人々に命と息と万物とを与え、また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりひとりから遠く離れておいでになるのではない。われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。あなたがたのある詩人たちも言ったように、『われわれも、確かにその子孫である』。このように、われわれは神の子孫なのであるから、神たる者を、人間の技巧や空想で金や銀や石などに彫り付けたものと同じと、見なすべきではない」(使徒行伝 17:22～29)。

レクテッド・メッセージ 1巻 290～293

神の驚くべき恵み

God's Amazing Grace



6月 「恵みの代価」

天の御座から離れて

「キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。」(ピリピ 2:6～8)

救いの価値を十分に悟るためには、どのような価が払われたかを理解する必要がある。キリストの苦難について考えが限定されているため、多くの人々は贖罪の大いなる働きについて低い評価しかしていない。栄光に満ちた人類救済の計画は、父なる神の無限の愛を通してもたらされた。この神聖な計画のうちに、墮落した人類に対する神の愛の最もすばらしい現れを見ることができる。神の愛する御子という賜物のうちに表されたこのような愛は、聖天使たちを驚かせた。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)。この救い主は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であられた。このお方は神聖な大権、完全、そして卓越さを持っておられた。このお方は神と等しくあられた。「神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ」(コロサイ 1:19)。……

キリストは、人が従順の生涯によって、神の律法の刑罰を免れることができるように、罪人の代わりに死ぬことに同意された。(教会への証 2巻 200, 201)

イエスは、天の大君であられ、天使たちがその御旨を行うことを喜ぶ愛された司令官であった。このお方は神と一つであられ、「父のふところに」おられたが(ヨハネ 1:18)、人が罪と悲惨さのうちに失われている間は、神と等しくあることを固守すべきことは思われなかった。このお方は御座から降りて来られ、ご自分の冠と王家の笏を後にし、ご自分の神性を人性で覆われた。このお方は人が高められてご自分と共にみ座につくことができるように十字架の死に至るまでご自分を低くされた。このお方のうちに、わたしたちには完全な捧げ物、無限の犠牲、力ある救い主、すなわちこのお方によって神の許へ行くすべての人を最高にまで救うことのできるお方がおられる。このお方は愛のうちに、御父を表し、人を神に和解させ、人を創造されたお方のみかたちに従って新たにされた新しい被造物とするために来られる。(セクレッド・メッセージ 1巻 321)

わたしたちの天父は、墮落した人類のためにご自分の御子を死に渡されることによって、無限の犠牲を払われた。わたしたちの贖いのために支払われた代価は、わたしたちがキリストを通してどのような者になれるかについて、高められた見解を与えるべきである。(教会への証 4巻 563)

比類のないへりくだり

「このように、子たちは血と肉と共にあずかっているのです、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし」(ヘブル 2:14)

サタンは人間の墮落を果たし、それ以来、彼の働きは人のうちにある神のみかたちを消し、人間の心に自分自身のかたちの印を押すことであった。……彼は神から人にもたらされる光線の一つ一つをさえぎり、神に帰すべき礼拝を自分のものとする。……

しかし、神のひとり子はこの光景をご覧になり、人間の苦悩と悲惨さを見ておられた。……このお方はサタンが人の魂から神に似たすがたの形跡をすべて取り除くために働いている陰謀をご覧になった。神が最も尊く高価な賜物として人に授けて下さった道徳力を破壊するために、サタンがどのように人々を不節制に導いたかをご覧になった。このお方は食欲の放縦を通して、脳の力が破壊され、神の宮が損なわれているのをご覧になる。……人間の感覚、神経、欲望、器官は、超自然の力によって、最も下品でいやしい情欲をほしいままにするために働かされ、悪霊の印そのものが人間の顔つきにおされた。人間の顔は、その身を占領している大勢の悪霊の表情を反映した。世のあがない主がごらんになったのはこのような光景だった。限りなく純潔なおかたの目に、それは何という光景だったことだろう。……

神の側の大きいなるへりくだりは、わたしたちのはかり知れない神秘である。計画の偉大さは、完全に理解することも、無限の知恵がそれにまさる計画を立てることもできないものであった。それは、ただ……キリストが人となり、神の律法の違反ゆえに罪が引き起こした怒りを受けられることによるのみ、成功することができた。この計画を通して、偉大な恐るべき神は、正義でありながら、かつイエスを信じ、このお方を自分の個人的な救い主として受けるすべての人を義とすることがおできになった。これは人を永遠の滅びから救う天の贖いの科学である。……

神はこの世を非常に愛して下さり、人の不法の刑罰を耐えるためにキリストのうちにご自身を世にお与えになった。神は、世がご自分に和解することができるために、ただ一人苦しむことのできる神なる存在として、御子と共に苦しまれた。(レビュー・アンド・ヘラルド 1895年10月22日)

比べがたいほどの誘惑

「この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない。」(ヨハネ 14:30)

キリストが世に入られた瞬間より、サタンの代理人たちは全同盟をあげて、アダムが欺かれ、倒されたように、このお方を欺き、倒すために働きを開始した。……

キリストがベツレヘムでお生まれになったとき、夜群れの番をしていた羊飼いたちに、神の御使たちがあらわれ、新しく生まれた幼子の権威の神聖な信任状を与えた。サタンは、自分の権威と争う神聖な任務を受けたお方が地に來られたことを知った。彼は御使たちが次のように宣言するのを聞いた、「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである」(ルカ 2:10, 11)。

天の使者たちは、サタンの会堂の怒りをことごとく引き起こした。彼は幼いイエスをあずかっている人々の跡をつけた。彼は宮の庭でのシメオンの預言を聞いた。……「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおりはこの僕を安らかに去らせてくださいます、わたしの目が今あなたの救を見たのですから。……」(ルカ 2:29 ~ 32)。サタンは、年老いたシメオンがキリストの神性を認めたのを見て、怒りに逆上した。

天の将は、誘惑者に攻撃された。……このお方がベツレヘムの無力な赤ん坊であったとき、すなわち黄泉の代理人たちがヘロデの嫉妬を通して、このお方の幼少時に滅ぼそうとしたときから、カルバリーの十字架に至るまで、このお方は絶えず邪悪な者によって攻撃された。サタンの会議では、このお方を必ず打ち負かさなければならないと決定された。だれ一人としてこの世に現れ、欺瞞者の力を免れた人はいなかった。悪の同盟の全勢力は、このお方の道に動員された。……サタンは、自分が打ち勝つか、打ち負かされるかのいずれかであることを知っていた。成功か失敗かは、彼にとってあまりに重大であり、自分の悪の代理人のだれかに任せざるわけにはいかなかった。悪の君は自ら、戦闘の指揮を執った。……

キリストの生涯は、サタンの代理人に対する絶えまない戦闘であった。サタンは神の御子に敵対して背教の全勢力を再結集した。(レビュー・アソッド・ヘラルド 1895年 10月 29日)

彼の幾多の誘惑に対して、反応があったことは一度もなかった。一度たりともキリストはサタンの領域に踏み出し、彼を有利にされたことはなかった。(SDAパブル・コメンタリ [E.G. ホット・コメント] 5巻 565)

言い表せないほどの孤独

「わたしはひとりで酒ぶねを踏んだ。もろもろの民のなかに、わたしと事を共にする者はなかった。」(イザヤ 63:3)

イエスは、子供のときも、青年時代も、大人になられてからもひとりで歩まれた。彼は純潔と忠誠のうちにただひとりでさかぶねを踏まれ、もろもろの民のなかに彼と事を共にする者はなかった。彼は人類の救いのためにおそるべき重い責任を負われた。人類の主義と目的とに決定的な変化がなければ、みな滅びてしまうことを、イエスはご存じだった。これがイエスの魂の重荷だったが、だれも彼の上におかれているこの重荷を理解できなかった。(各時代の希望上巻 92, 93)

イエスの一生の間、その母と兄弟たちは彼の使命を理解しなかった。弟子たちさえ、イエスを理解しなかった。イエスは、神と一つのおかたとして、永遠の光のうちに住んでおられたが、地上の生涯は孤独のうちに送られねばならない。イエスは、われわれと一つになって、われわれの不義と苦悩の重荷を負われねばならない。罪のないおかたが罪の屈辱を感じられねばならない。平和を愛されるおかたが争いと共に住み、真実が虚偽と、純潔が邪悪と共に住まねばならない。律法を犯したために生じたあらゆる罪、あらゆる不和、あらゆるけがれた欲がイエスの心を苦しめた。

イエスはひとりで道を歩み、ひとりで重荷を負われねばならない。栄光をぬいで、人間の弱さを着られたイエスの上にこの世のあがないがおかれねばならない。イエスはすべてそうしたことを見、また感じられたが、彼の決意は固かった。墮落した人類の救いがイエスの腕にかかっていたので、彼は手をさしのべて大能なる愛の神のみ手をにぎられた。(同上上巻 116)

天の宮から離れ、人間として一生を送っておられるキリストの孤独は、弟子たちから正しく理解もされなければ、評価もされなかった。……イエスがもはや彼らといっしょにおられなくなって、……イエスの心をよこぼせるような心づくしを示すことができたのだったということがわかり始めた。……

今日のわれわれの世界においても明らかにこのことが不足している。しかしキリストが自分にとってどういうおかたであるかを全部理解している人はほとんどいない。もしそれが理解されているなら、マリヤの大きな愛があらわされ、(マタイ 26:6～13) 惜しむことなく油がそそがれるであろう。……どんなものも、キリストにささげるには高価すぎるとか、キリストのために耐え忍ぶには克己と犠牲が大きすぎるということはないであろう。(同上中巻 390, 391)

無類のテスト

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。」(ヘブル 4:15)

神の御子をご自分のバプテスマの後に、悪魔に試みられるために、さびしい荒野に入られた。……四十日の間、このお方は何も食わず、飲まれなかった。……このお方は人に及ぶ食欲の力をよくわかっておられた。……そして罪深い人間のために、このお方はこの点において可能な限り厳しいテストを受けられた。ここでほとんどの人が感謝しない勝利が得られた。ゆがめられた食欲の支配的な力と、食欲にふける嘆かわしい罪は、救い主がその力を打ち破るために耐えられた断食の長さによってのみ理解することができる。……このお方はご自分の神聖な力をわたしたちの人間の努力に結びつけるために地に来られた。それは、このお方のお与えになる強さと道徳的な力を通して、わたしたちが自分自身で勝利することができるためであった。

ああ、栄光の王が飢えの苦痛と狡猾な敵の激しい誘惑に耐えるために、この世に下って来られたとは、なんとという比類なきへりくだりであろう。それはこのお方が人のために無限の勝利を得られるためであった。ここに比類のない愛がある。……

わたしたちの贖い主の苦しみをこのように言いがたいほど厳しいものにしたのは、苦しい飢えの苦痛ばかりでなかった。このお方の神聖な魂にこれほど重くのしかかったのは、このような恐るべき悩みを世にもたらしてきた食欲の放縱の結果生じた罪の感覚であった。……

人の性質をもって、またご自分にのしかかる人の罪の恐るべき重さをもって、わたしたちの贖い主は、人の魂を危険におとし入れるこの主だった大きな誘惑において、サタンの方に耐えられた。もし人がこの誘惑に打ち勝つならば、彼は他のすべての点でも勝利できるのであった。

不節制は、人に知られているあらゆる道徳的な悪の基礎となっている。キリストは破滅の原因が始まったところから、贖いの働きを始められた。わたしたちの初めの父祖の墮落は、食欲の放縱によって引き起こされた。贖いにおいて、食欲の否定がキリストの最初の働きであった。キリストがこの世に來られて、わたしたちの罪と弱さを担い、苦悩の道を歩まれたとは、なんとという驚くべき愛であろう。それは、ご自分のしみのない功績の生涯によって、わたしたちがいかに歩み、またこのお方が勝利なさったようにいかに勝利すべきかを示すためであった。(苦悩 10～12)

無限の苦しみ

「主ご自身、試練（誘惑）を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。」（ヘブル 2:18）

わたしたちが、キリストは「試練を受けて苦しまれた」という言葉の意味を理解することができればよいのだが。このお方は罪のしみのないお方であられたので、聖なるご性質の精錬された知覚力が悪との接触到にさらされることは、このお方にとって言いがたいほど苦痛であった。しかし、人性をご自分に取られて、このお方は大背教者と直面し、ご自分の御座の敵に素手で抵抗された。一つの思いにおいてさえ、キリストは誘惑の力に屈しなかった。（SDA バイブル・コメント [E.G. 初巻・コメント] 7 巻 927）

天にとって、これはなんとという光景であったことであろう！わずかな罪のしみも汚れも知らないお方であるキリストが、墮落した状態のうちにわたしたちの性質を取られた。これは、有限な人間が理解できるよりはるかに大きなへりくだりである。神が肉においてあらわれた。このお方はご自分を低くされた。これはなんと思考すべき、深く真剣に熟考すべき主題であろう！天の大君であられるほど無限に偉大であったにもかかわらず、なおその尊厳と栄光を微塵も失わずにこれほどまで低く身をかがめられた！このお方は貧しさと、人々の間で最も深く落ちた所にまで身をかがめられた。わたしたちのために、このお方は貧しくなられた。それはわたしたちがご自分の貧しさを通して、富んだ者とされるためであった。（セラフ・メッセージ 1 巻 253）

世はもともと善の型を失い、全世界的に背教と道徳的な墮落へ沈みこんでいた。そしてイエスの生涯は、神聖な慈愛と無我の愛を吹き込むことにより人類を初めの状態に連れ戻すための骨折りと自己否定の努力の生涯であった。世におられたが、このお方は世のものではなかった。このお方にとって、サタンがもちこんだ敵意や墮落や不純に接触させられることは絶えざる苦痛であった。しかし、このお方には人を神聖なご計画に調和させ、地を天とつながるものとするためになすべき働きがあり、この目的を果たすために大きすぎる犠牲はないと思われた。このお方は、「すべてのことについて、わたしたちと同じように試練（誘惑）に会われた」（ヘブル 4:15）。サタンはこのお方を一歩ごとに攻撃する用意ができており、最も激しい誘惑を浴びせた。しかし、主は「罪を犯さず、その口には偽りがなかった」（ペテロ第一 2:22）。このお方はその聖潔の完全さに比例して、「試練（誘惑）を受けて苦しまれた」。しかし、暗黒の君はこのお方のうちに何も見いださなかった。思いや感情は一つとして、誘惑に応じなかった。（教会への証 5 巻 421, 422）

苦闘の祈り

「キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ」(ヘブル 5:7)

親愛なる青年がたよ、あなたが誘惑にあわせず、と祈るとき、あなたの働きは祈りで終わるのではないことを覚えていなさい。あなたはその後、誘惑に抵抗することによって、できるかぎり自分自身の祈りに応え、それから自分でできないことはイエスにさせていただくために、お任せしなければならない。……

身を飾る青年に思い出してもらいたいのは、……彼らの罪のゆえに、救い主の頭に恥ずべきいばらの冠がかぶせられたことである。あなたが貴重な時間を自分の衣服を飾るために用いるとき、栄光の王が飾り気のない一枚折りの上着をまとうておられたことを覚えなさい。自分の身なりを飾ることに心を用いて疲れているあなたは、どうかイエスがしばしば困窮している人々を祝福するために絶え間ない骨折りと自己否定と自己犠牲に疲れておられたことを心に覚えていただきたい。

このお方はさびしい山で夜を徹して祈られたが、それはご自分の弱さやご自分の必要のためではなく、まさに今あなたが打ち負かされている点に対して敵の誘惑に抵抗するのにあなたの性質が弱いことを、このお方がご覧になり、また感じておられたからこそである。このお方はあなたが自分の危険に関して無関心になり、あなたが自分の祈りの必要を感じないことをご存じであった。このお方がご自分の御父に強い叫びと涙とをもって祈りを注ぎ出して下さったのは、わたしたちのためであった。それらの涙が流されたのは、まさにわたしたちが今ふけており、イエスの愛を締め出してしまう誇りと虚無への愛着と楽しみから、わたしたちを救うためであった。……

若い友人がたよ、あなたは立ち上がって、あなたを世に同化させてきたこの恐るべき無関心と昏睡状態を振り落とすであろうか。あなたはこの危険な時にくつろいでいる人々の道に破滅が横たわっていることを教える警告の声に注意を払うであろうか。(教会への証 3 卷 378, 380)

わたしたちの青年の多くは、自分たちに与えられた警告や譴責に注意を払わず軽視するために、サタンが入るための戸を大きく開いている。わたしたちの導き手として神のみ言葉があり、わたしたちの天来の教師としてイエスがおられるのであるから、神のご要求やサタンの策略について無知である必要はない。……わたしたちが聖霊に導いていただくために完全に自らを明け渡すならば、神のみ旨に従順であることは不愉快な仕事ではなくなる。(同上 378)

夜を徹しての祈り

「このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。」(ルカ 6:12)

天の大君は、地上の奉仕に携わっておられる間、ご自分の御父に多く祈られた。このお方はしばしば夜を徹して祈りのうちに頭を垂れておられた。……オリブ山は、神の御子が祈祷のために好まれた場所であった。しばしば群衆が夜自分の場所へ帰りこのお方を残されると、一日の労働で疲れておられたにもかかわらず、このお方は休まなかった。……町が沈黙のうちに静まり、弟子たちが睡眠によって回復を得るために自分の家に戻っている間に、イエスはお眠りにならなかった。ご自分の弟子たちがこの世において日々直面する悪の感化力から守られるように、またご自身の魂が来るべき日の義務と骨折りのために強められ、準備ができるように、このお方の神聖な嘆願が御父の許へ上っていった。ご自分に従う人々が眠っている間、彼らの神聖な教師は、夜を徹して祈っておられた。夜の露や霜が祈りのうちに頭を垂れておられるこのお方の上を下りた。このお方の模範は、従う者たちのために残されている。……

このお方はじゃまの入らない夜の静寂を選ばれた。イエスは病人を癒し、死人を生き返らせることがおできになった。このお方ご自身が、祝福と力の源であられた。このお方が嵐にさえ命じられると、それらはこのお方に従った。このお方は墮落に汚されず、罪を知らないお方であった。しかし、このお方は祈られた。しかも、しばしば強い叫びと涙とをもって祈られた。ご自分の弟子たちのために、またご自身のために祈られ、こうして人類にままあるわたしたちの必要、弱さ、感情をご自分のものとされた。このお方は、人間の墮落したわたしたちの性質の情欲をもってはおられなかったが、同じ弱さに囲まれ、わたしたちと同じようにすべての点において誘惑された、力ある嘆願者であられた。イエスのご自分の御父からの助けと支えを必要とした苦悩に耐えられた。

キリストはわたしたちの模範であられる。キリストの牧師は誘惑され、サタンに激しく攻撃されているであろうか。罪を知らなかったお方もそうであった。このお方はこうした苦悩の時に御父に向かわれた。このお方はわたしたちが、しばしば真剣な祈りをささげるこのお方の模範に従うことによって、すべての危急の時に助ける恵みと力を見出すことができる方法を提供するために、この地上に來られた。(教会への証 2 卷 508, 509)

ゲッセマネの苦悩

「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにはなく、みこころのままになさって下さい。」
(マタイ 26:39)

ゲッセマネの園で、キリストは人間の代わりに苦しめられた。そして神の御子の人性は、恐るべき罪の意識の恐怖の下によるめき、このお方の着ざめ震える唇からは、苦悩の叫びが漏れたのであった「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」……もし苦悩に耐えるために天からの御使がこのお方を強めなかったならば、人性はその時、そこで罪の自覚の恐怖の下で死んでしまっていたことであろう。……キリストは神の律法の違反者たちに宣告された死に苦しんでおられた。

悔い改めていない罪人が生ける神のみ手に陥ることは、恐ろしいことである。これは洪水によって滅ぼされた昔の世界の歴史によって、天から下った火がソドムの住民を滅ぼした記録によって、証明されている。しかし、無限の神の御子キリストが、罪深い世のために神の怒りを感じられたときの苦悩ほど、その恐ろしさが甚大な規模で証明されたことはかつてなかった。ゲッセマネの園が、罪深い世に対して著しい苦悩の場所となったのは、罪の結果、すなわち神の律法の違反のゆえであった。神の御子が耐えられた悲しみと苦悩は測り知れない。

人間が罪を負う者とされたことはなく、救い主が耐えられた罪ののろいの恐怖を知ることは決してない。どのような悲しみも神の怒りが圧倒するばかりの力をもって下ったお方の悲しみの比較にはならない。人性は、限られた量のテストや試練に耐えることができるにすぎない。有限な者は、有限な度合いでしか耐えられず、人性は倒れてしまう。しかし、キリストの性質には、苦悩のためにより大きな容量があった。……キリストの耐えられた苦悩は、広がり、深くなって、罪の性質と、神が罪のうちに続ける人々にもたらす報復の性質についてより広い観念を与える。罪の支払う報酬は死であるが、悔い改めて信じる罪人への神の賜物は、イエス・キリストを通しての永遠の命である。(SDA パイブル・コメンタリー [E.G. ホット・コメント] 5 巻 1103)

正義の剣は鞘(さや)から抜かれ、悪に対する神の怒りは人間の身代わり、イエス・キリスト、すなわち神のひとり子の上にとどまった。(同上)

眉をひそめた御父のみ顔

「今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である。」(ルカ 22:53)

神のみ子がゲッセマネの園において祈りの態度で頭を垂れておられたとき、このお方の毛穴からは精神の苦悩のために、大粒の血のしたたりのような汗が落ちた。大いなる闇の恐怖がこのお方を取り囲んだのはここであった。世の罪がこのお方の上にあった。このお方はご自分の御父の律法の違反者として人間の代わりに苦しんでおられた。ここが誘惑の場面であった。神の神聖な光が、このお方の視界から遠ざかり、闇の権力の手中に渡されつつあった。ご自分の魂の苦悩のうちに、このお方は冷たい地面にうつ伏せに倒れてしまわれた。このお方は眉をひそめたご自分の御父のみ顔に気づかれた。このお方は有罪の人間の唇から苦悩の杯をとって、それをご自分が飲み、その代わりに祝福の杯を人に与えることを申し出られた。人の上に落ちかかるはずであった怒りが今やキリストの上に落ちかかっていた。神秘の杯がこのお方のみ手のうちで震えたのはここであった。

イエスは、しばしばご自分の弟子たちと共に、瞑想と祈りのためにゲッセマネに引き込まれたことがあった。……かつてこのお方がこれほどまで悲しみに満たされた心でこの場所を訪れたことはなかった。神の御子をたじろがせたのは、身体的な苦しみではなかった。……失われた世界の罪がこのお方の上であり、圧倒していた。これほどの刺し通すような苦悩をもってこのお方の心を引き裂き、大粒の血の滴りをこのお方の額からにじませたのは、罪の結果として、眉をひそめられた御父のみ顔を感じられたからであった。……

わたしたちは、神のいとしがりが人の罪を負われた結果、御父からの分離を自覚された時のこのお方のゲッセマネにおける言い表しがたい苦悩について、かすかな観念しか持つことができない。このお方は墮落した人類のために罪となられた。御父の愛が引き上げられているという自覚が、このお方の苦悩する魂から次のような悲嘆の言葉を押し出したのである。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである」(マタイ 26:38) ……

神聖な神の御子は、気が遠くなり、死のうとしておられた。御父はご自分の許から、神聖な受難者を強め、血染めの道を歩むようこのお方を備えるために、使者を遣わされた。御父がご自分のふところの愛する御子から、ご自分の光線と愛と栄光をこのお方から引き離しておられるのを、天の万軍が静かな悲しみのうちに目撃した時の彼らの驚きと悲しみを、死すべき人間が見ることができたら、罪がどれほどこのお方の御目に忌むべきものであるかをもっとよく理解できることであろうに。(教会への証 2巻 203～207)

御父に見捨てられた

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」(マタイ 27:46)

このお方〔イエス〕は、口づけによって裏切られてご自分の敵の手の中に陥り、地上の裁判所の法廷へとせきたてられた。……天使の万軍は、天の大君であられたお方、栄光の冠をつけておられたお方が、今やいばらの冠をかぶり、サタン の怒りにたきつけられて熱狂し怒り狂った群衆の激高の犠牲となって血を流しておられるのを、驚きと悲しみをもって見た。忍耐強い苦難者なるお方を見よ!このお方のみ頭には、いばらの冠がある。このお方の命の血潮が、すべての裂かれた血管から流れ出る。……

虐げる者と虐げられる者を見よ!大群衆が世の救い主を取り囲んでいる。冒流の下劣な誓いが、嘲りと冷笑に混じっている。……尊い神の御子キリストは前方へ導かれ、十字架がその肩に負わされた。……苦々しい敵と無感情な傍観者の膨大な群衆に押し迫られて、このお方は十字架へと導かれる。……このお方は十字架に釘づけられ、天地の間に架けられる。……失われた世界の栄光の贖い主は、御父の律法に対する人間の不法の刑罰に苦しんでおられる。このお方はご自身の血をもってご自分の民を贖うあがない代を払おうとしておられた。……

ああ、死につつある救い主が耐えられたような苦しみと悲しみがかつてあったであろうか!このお方の杯をこれほど苦いものとしたのは、御父のご不興の感覚であった。十字架上のキリストの命をこれほど早く終わらせたのは、身体的な苦しみではなかった。それは、世の罪の押しつぶすほどの重さであり、御父の怒りの感覚であった。……ご自身の御父が永遠にご自分を去られたという激しい誘惑は、十字架からの「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という刺し通すような叫びを生じさせた。

死につつある苦悩の中で、その尊い命を手放すばかりのときに、このお方はただ信仰によって、従うことがご自分の喜びであったお方により頼まれた。……将来ご自分のものとなる勝利の明るい希望と確信さえ与えられず、このお方は大声で、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と叫ばれた(ルカ 23:46)。このお方は御父のご品性、その正義、その憐れみ、そしてその大いなる愛をよくご存知である。そして従順のうちに、そのみ手のうちに落ちられた。(教会への証 2巻 207～211)

世の罪

「しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ 53:5)

ある人々は、贖罪について限られた見解しかもっていない。彼らはキリストが神の律法の刑罰のほんのわずかな部分しか苦しめなかつたと考えている。彼らは、御父のいとし子のみ怒りを感じはしたものの、このお方の痛々しい苦悩の間中、御父の愛と受け入れの保証を持っておられた、またこのお方の前にあつた墓の門は、明るい希望によって照らされていた、そしてご自分の将来の栄光について変わらない証拠があつたと考えている。これは大変な間違いである。キリストの鋭い苦悩は、ご自分の御父のご不興の自覚であつた。このために生じたこのお方の精神的な苦痛はあまりに激しく、人はわずかな観念しか持つことができない。

多くの人々にとって、わたしたちの神聖な主のへりくだり、屈辱、犠牲は、イエスの殉教者の死の歴史……程度にしか関心を呼び覚まさない。多くの人々は、ゆっくりとした拷問によって死に苦しんだ。他の人々は十字架によって死に苦しんだ。何において神のいとし子の死はこれらと違つているのであろうか。……もしキリストの苦しみがただ身体的な苦しみだけで生じていたのであれば、このお方の死は、殉教者のある人々と同程度の苦痛であつたであろう。しかし、身体的な苦痛は、神のいとし子の苦悩のほんの小さな部分に過ぎなかつた。犯された律法の刑罰にこのお方が苦しめられたとき、世の罪と、またご自分の御父の怒りの自覚がこのお方の上にあつた。このお方の神聖な魂を押しつぶしたのは、これらであつた。……罪が神と人との間に生じさせた分離を、罪のない、苦しんでおられるカルバリーの人は完全に自覚し、鋭く感じられた。このお方は闇の権力によって圧迫されていた。このお方には将来を明るくする光線は一筋もなかつた。……この時、すなわち御父のみ顔が隠され、悪天使たちの大群がこのお方を取り囲み、世の罪がこのお方の上にあつたこの恐るべき闇の時に、このお方の唇から「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになつたのですか」との言葉がうめき出たのであつた。

永遠の命のみ事業に比較するとき、他のすべては無意味なものに沈んでしまう。(教会への証 2 卷 213～215)

なんとという代価

「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。」(ペテロ第一 1:18, 19)

ペテロは、「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではな」と述べている。ああ、もしこれらのものが人の救いを買うのに十分であれば、次のように仰せになる方によって、なんとたやすくそれは成し遂げられたことであろう。「銀はわたしのもの、金もわたしのものである」(ハガイ 2:8)。しかし、神の聖なる律法の違反者は、ただ神の御子の尊い血潮によってのみ贖われることができるのであった。(教会への証 4 巻 458)

わたしたちの贖い主が贖いをわたしたちの手の届くところにおいてくださったのは、無限の犠牲と言い表しがたい苦悩を通してであった。この世において、このお方は尊ばれず、知られなかった。それは、その驚くべきへりくだりと屈辱を通して、このお方が人を高め、天の宮廷における永遠の誉れと不朽の喜びを受けられるようにするためであった。このお方の地上における 30 年の生涯の間、このお方の心は、考えも及ばないほどの苦悩に締めつけられた。まぶねからカルバリーまでの道のりは、悲哀と悲しみの影が落ちていた。このお方は悲しみの人で病を知っておられ、人の言葉では言い表せないような心痛に耐えられた。このお方は真実、次のように言うことがおできになった、「わたしにくださった苦しみのような苦しみが、……あるだろうか、尋ねて見よ」(哀歌 1:12)。罪を完全な憎しみをもって憎んでおられるにもかかわらず、このお方はご自分の魂に全世界の罪を寄せ集められた。無罪でありながら、このお方は罪人の刑罰を負われた。罪のないお方でありながら、ご自身を違反者の身代わりとなられた。すべての罪の罪深さが、世の贖い主の神聖な魂の上に重くのしかかった。一人びとりのアダムのみすこ娘の悪の思想、悪の言葉、悪の行いが、このお方への復讐を求めた。なぜなら、このお方が人の身代わりとなられたからである。罪の罪深さはこのお方ではなかったにもかかわらず、このお方の精神は人の不法によって引き裂かれ、傷つけられた。そして罪を知らないお方がわたしたちのために罪となられた。それはわたしたちがこのお方のうちにあつて神の義となることができるためであった。(セクレット・メッセージ 1 巻 322)

わたしたちのためになんとという代価が支払われたことであろう! 十字架を、そしてそこにあげられた犠牲なるお方を眺めよ。残酷な釘に刺し通された諸手を見よ。木に固く打ちつけられたみ足を見よ。キリストはご自身の体にわたしたちの罪を負われた。この苦悩、この苦痛が、あなたの贖いの代価である。(教会への証 6 巻 479)

一人の魂の価値

「あなたがたは知らないのか。……あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。」(コリント第一 6:19, 20)

すべての人類は、この無限の代価を払って買われたのである。神は、この世界に天の全資産を傾けること、すなわち、キリストにあつて、全天をわたしたちに与えることによって、すべての人の意志、愛情、知能、魂を買い取られたのである。信者であるとないと問わず、すべての人は、神の所有である。(キリストの実物教訓 300)

わたしたちは創造と贖いによってこのお方のものである。わたしたちの体そのものがわたしたち自身のものではなく、自分の好きなように扱ったり、神に完全な奉仕をお捧げすることができなくなるような衰えに導く習慣によって無能にしたりすべきものではない。わたしたちの命とすべての機能はこのお方に属している。このお方はわたしたちを毎瞬間、世話をしてくださっている。このお方は生きた機械が活動し続けるように守っておられる。もしわたしたちが一瞬でもそれを操縦するように任せられたとしたら、死んでしまうのである。わたしたちは絶対的に神に依存している。

わたしたちは神に対する自分たちの関係と、わたしたちに対する神の関係を理解するとき、大きな教訓を学ぶようになる。次の「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ」との言葉がつねに記憶の間にかけているべきである。それはつねにわたしたちのタラント、財産、感化力、またわたしたち自身に対するこのお方の権利を認めることができるためである。わたしたちはこの神の賜物を、思いにおいて、魂において、体において、どのように扱うべきかを学ぶべきである。それはキリストが買われた所有物として、わたしたちがこのお方に健全で芳しい奉仕をお捧げできるためである。(牧師への証 423)

地上の富は、わたしたちの主にして主人であるお方がそのために死なれたたった一人の魂の価値と比較するとき、無意味なものになってしまう。はかりをもって、もろもろの丘をはかり、てんびんをもって、もろもろの山をはかるお方は、ひとり人の魂を無限の価値のあるものとみなされる。(教会への証 4 巻 261)

青年たちに、彼らは自分自身のものでないという考えをきざみつけるべきである。青年はキリストに属する者である。その血潮で買われ、キリストが愛されて自分のものであると主張されているものである。キリストによって守られているため青年は生きているのである。その時間も体力も能力もキリストのものであり、キリストのために用いるように発達させ、訓練しなければならぬ。(ミストリー・オブ・ヘリツグ 366)

キリストは高価な値であなただけを買い取られ、あなたが受けるなら、恵みと栄光を提供しておられる。(教会への証 2 巻 289)

愛の犠牲

「また愛のうちに歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。」(エペソ 5:2)

これはわたしたちのために命の賜物の奉納であった。それは、わたしたちがことごとくこのお方の望まれるとおりの者となり、このお方の聖化された人生において表わされたとおりのご品性の芳香、このお方自身の純粋な思想、その神聖な特質を表すこのお方の代表者となることができるためであり、他の人々が人のかたちの中にこのお方を眺め、そして……キリストのように一純粋で、汚れず、あますことなく神に受け入れられ、しみもしわもそのたぐいのものがいっさいないようにならざることを望むように導かれるためである。(SDA パイブル・コメント [E.G. 柯ト・コメント] 6 卷 1118)

キリストはどれほど熱心にわたしたちの救いの働きを推し進めてくださったことであろう!一人びとりの悔い改めた信じる罪人に、ご自分のしみのない義の功績を着せてくださることによって、墮落した人類に価値を与えることを求めるときに、このお方のご生涯は、どれほど献身的な愛を表わしたことであろう!このお方はどれほど倦まず働いたことであろう!宮において、会堂において、町の通りにおいて、市場において、作業場において、海辺で、丘の間で、このお方は福音を説き、病人を癒された。このお方はご自身にあるものをすべてお与えになったが、それは贖いの恵みの計画を実行するためであった。(天国で 43)

キリストは、ご自分のさかされた体を提供して、神の嗣業を買いもどされた。これは人間にもう一度機会を与えるためであった。「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである」(ヘブル 7:25)。キリストは彼の清い生涯、服従の生活、カルバリーの十字架の死とによって、失われた人類のためにとりなしをされた。そして、今わたしたちの救いの君は、単なる嘆願者としてではなくて、戦いに打ち勝った勝利者として、わたしたちのために、とりなしをなさるのである。彼のささげ物は完全なものである。そして、主は、わたしたちをとりなすお方として、神の前で、ご自身の汚れなき功績と神の民の祈りと告白と感謝を盛った香炉を持って、ご自分が制定なさったお勤めをしておられる。これらは、キリストの義の香りとともに、芳しい香りとなって神の前に上る。このようなささげ物はことごとく神に受け入れられる。許しがあらゆる不義を覆うのである。(キリストの実物教訓 136)

天そのものが危険にさらされた

「わたしは人を精金よりも、オフルのこがねよりも少なくする(尊いものとする)。」
(イザヤ 13:12)

いったい、だれが一人の魂の価値を評価できるであろうか。もしその価値を知りたいと思うならば、ゲッセマネへ行って、血の大きなしずくのような汗を流して苦しまれたキリストと苦悩を共にするとよい。そして、十字架にかけられた救い主を見ることである。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」というあの絶望の叫びを聞き、傷ついた頭、刺された脇、さかれた足を見なさい。キリストは、ここですべてのものを失う危険を冒しておられたことを忘れてはならない。わたしたちの贖罪のために、天そのものが危機におちいったのである。十字架の下に立って、キリストはただ一人の罪人のためだけ、その命をおすてになったのだということを考えるとき、初めて一人の魂の価値を正しく評価することができる。

もし、あなたがキリストと親しく交わっていれば、どの人にも価値があることを認めるようになる。キリストがあなたに対していだかれたと同じ深い愛を、あなたも他の人びとにもいだくようになる。そうしてこそ始めて、キリストが身代わりになってなくなられた人びとを追いやるのではなくて、引きよせることができ、反感をいだかせるのではなくて、ひきつけることができる。……彼らの罪が大きく、みじめさが深刻であればあるだけ、彼らを回復させようとする努力も熱烈で、愛のこもったものとなることであろう。悩み苦しむ者や、神に罪を犯している者、また、罪の重荷に圧倒されている人びとに何をすべきかがわかるであろう。またあなたは、彼らに心から同情することができて、援助の手をさしのべるようになることであろう。(キリストの実物教訓 176, 177)

キリスト、しかも十字架につけられたキリストがわたしたちの思想の主題となり、魂の最も深い感情をかきたてるべきである。……わたしたちが人間の魂の価値を量ることができるのは、ただ十字架を通してのみである。神がご自身の御子を人類の贖いのために死に渡すことによって人の救いのために支払われた無限の代価こそ、キリストがそのために死なれた魂の価値として御父が満足なさるものである。ここに、なんとという満ちみちた知恵、憐れみ、愛が表されていることであろう!人の価値は、カルバリーに行ってはじめてわかる。キリストの十字架の奥義において、わたしたちは人の価値を量ることができる。(教会への証 2 巻 289)

なんと栄光に満ちた可能性が墮落した人類の前におかれていることであろう!このお方の御子を通して、神は人が手に入れられる卓越さを表わされた。キリストの功績を通して、人はその墮落した状態から純潔な状態に引き上げられ、オフルの黄金よりも尊くされる。(彼を知るために 134)

御父の測り知れない犠牲

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。」(ヨハネ第一 4:10)

愛は、天地間の神の政府の基本的原則である。そして、これがクリスチャンの品性の基礎とならなければならない。……また、愛は、犠牲によってあらわされるものである。

贖罪(しよくざい)の計画は、犠牲によって立てられた。しかも、その犠牲とは、とうてい測ることができないほど広く深く高いものであった。キリストは、わたしたちのためにすべてをお与えになったのであるから、キリストを受け入れる者は、あがない主のために、喜んですべてを犠牲にするのである。(キリストの実物教訓 26)

アダムの罪が人類を希望のないみじめさに突き落とすとき、神はご自分を墮落した存在から切り離すこともおできになった。このお方は罪人である彼らにふさわしい取り扱いをなさることもできた。このお方は天の使たちに、ご自分の怒りの杯をわたしたちの世に注ぎ出すようにお命じになることもできた。このお方はご自分の宇宙からこの暗いしみを取り除くこともおできになった。しかし、神はそうなさらなかった。彼らをご自分のみ前から追放する代わりに、墮落した人類になお近く来てくださった。このお方はわたしたちの骨の骨、肉の肉とならせるために、ご自分の御子を与えてくださった。……

神の賜物は、人のすべての計算を超えている。何一つ差し控えられなかった。神はもっと多くをなすことがおできなかつたはずだとか、あるいは人類にもっと大きな愛を表わすことができたはずだと言われることをお許しにならなかった。キリストという賜物のうちに、このお方は全天をお与えになった。(神のむすこ娘たち 11)

キリストを愛すると公言してきた人々は、自分たちと神の間に存在する関係を理解してこなかったし、またそれはなお、彼らの理解力にぼんやりとした概要しか描かれていない。彼らは神のひとり子を世の救いのためにお与えになった驚くべき神の恵みを漠然としか理解していない。(セクレット・メッセージ 1巻 134)

人をご自分に確保し、彼の永遠の救いを確かなものとするために、キリストは天の王宮を後にし、この地に来られ、人の代わりに罪と恥の苦悩を耐え、人類を自由にするために死なれた。人の贖いのために払われたこの無限の代価を考えると、キリストのみ名を公言する者がどうしてこのお方の小さい者のひとり無関心に扱うことができようか。……彼らは、いかに忍耐強く、親切に、愛情をもってキリストの血で買われた者を扱うべきであろう!(教会への証 5巻 614)

唯一の受け入れられる贖い代

「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。彼は、すべての人のあがないとしてご自身をささげられた」(テモテ第一 2:5, 6)

キリストを通して、和解と共に回復が人のために提供されている。罪によって生じた深淵は、カルバリーの十字架によって橋が架けられた。十分に完全な贖い代がイエスによって、罪人が許される徳によって支払われ、律法の正義は維持されている。キリストが贖罪の犠牲であることを信じるすべての人は、自分たちの罪のために来て許しを受けることができる。なぜなら、キリストの功績を通して、神と人との間の交信が開かれたからである。神はわたしをご自分の子として受け入れることがおできになり、わたしはわたしの愛する御父としてこのお方をわがものと主張し、このお方のうちに喜ぶことができる。わたしたちは自分の天の望みをただキリストに集中させなければならない。なぜなら、このお方がわたしたちの身代わりであり、保証だからである。……

人が自分の力でできる最善の努力は、自分の犯した聖にして義なる律法に見合う価値がない。しかし、キリストを信じる信仰を通して、彼は神の御子の義をことごとく十分なものとしてわがものと主張することができる。キリストはご自分の人性において、律法の要求を満たされた。このお方は罪人のために律法ののろいを担われ、彼のために贖罪をなしてくださった。それはご自分を信じる人がだれでも、滅びることのないためであった。……本物の信仰は、キリストの義を自分のものとし、罪人はキリストと共に勝利者とされる。なぜなら、彼は神性にあずかる者とされ、こうして神性と人性が結合されるからである。

自分で律法を守る行為によって天国にはいろうとする者は不可能なことを試みているのである。人は従順なしに救われることはできないが、彼の行いは彼自身のものであるべきではない。キリストが彼のうちに働きかけて願いを起こさせ、ご自分のよしとされることを行わせるべきである。……人がキリストなしにすることはすべて利己心と罪に汚れている。しかし、信仰を通してなされることは、神に受け入れられる。わたしたちがキリストの功績を通して天を得ようと求めるとき、魂は進歩する。わたしたちの信仰の創始者であり完成者であられるイエスを眺めつつ、わたしたちは力から力へ、勝利から勝利へ進むことができる。なぜなら、キリストを通して神の恵みがわたしたちの完全な救いを成し遂げたからである。(セルクッド・メッセージ 1 巻 363, 364)

わたしたちは墮落した人類を贖うために支払われた尊い贖い代を量ることはできない。このような驚くべき愛のために、今度は心の最もよく最も聖なる愛情が捧げられるべきである。(教会への証 4 巻 119)

言い尽くせない神の賜物

「言いつくせない賜物のゆえに、神に感謝する。」(コリント第二 9:15)

人への神の愛の啓示が十字架に集中している。その完全な意味を舌は述べる
ことができない。筆は描写することができない。人の思いは把握することができ
ない。……わたしたちの罪のために十字架につけられたキリスト、死人からよみ
がえられたキリスト、高いところへ昇天なさったキリストは、わたしたちが学び教
えるべき救いの科学である。

「キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事と
は思わず、かえって、おのれをむなうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。
その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死
に至るまで従順であられた。」(ピリピ 2:6～8)。「キリスト・イエスは、死んで、
否、よみがえって、神の右に座し」「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らの
ためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことが
できるのである。」(ローマ 8:34; ヘブル 7:25)。……

ここに無限の知恵、無限の愛、無限の正義、無限の憐れみがある。「ああ深
いかな、神の知恵と知識との富は」(ローマ 11:33)。

わたしたちが一つ一つの祝福を受けるのは、キリストの賜物を通してである。
この賜物を通して、日々わたしたちにエホバの慈しみから尽きることのない流れが
もたらされる。一つ一つの花は、その繊細な色合いやかぐわしい芳香と共に、そ
の一つの賜物を通してわたしたちの楽しみのために与えられている。日と月はこの
お方によって造られた。天を麗しくする星はひとつとしてこのお方に造られなかつ
たものはない。わたしたちの食卓にある食べ物一つも、わたしたちを支えるため
にこのお方が提供されなかったものはない。すべてのものにキリストの銘がある。
すべてのものは、神のひとり子なる、この言い尽くせない賜物を通して人に備えら
れている。このお方はこれらすべてのものが惜しみなく神の作品に流れることが
できるように、十字架に釘づけられたのである。(教会への証 8 巻 287, 288)

「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、
ご自分を愛する者たちのために備えられた」(コリント第一 2:9)。たしかにこのお
方の恵みの豊かさを眺めて、使徒と共に次のように叫ばずにいられる人は一人も
ない、「言いつくせない賜物のゆえに、神に感謝する」(教会への証 5 巻 730)。

これほど高価でありながら、なお無償

「ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。」(ローマ 5:18)

金銭はそれを買うことができない。知性はそれをつかむことができない。力はそれを命じることができない。しかし、それを受け入れるすべての者に、神の栄光に満ちた恵みは無償で与えられる。人は自分の必要を感じて、自己依存をことごとく捨て、賜物として救いを受けることができる。天に入る人々は、自分自身の義によって壁をよじ登ったり、あるいは高価な金銀の捧げ物によって彼らに戸が開かれたりはしない。そうではなく、彼らはキリストの十字架の功績を通して御父の家の多くの住まいへ入る資格を得るのである。

罪深い人類にとって、最高の慰めであり、喜びの最大の原因は、天が罪人の救い主とするためにイエスを賜ったということである。……このお方はアダムがつまり、倒れたところをやりなおすことを、すなわち戦場において誘惑者に対面し、人のために彼に打ち勝つことを申し出られた。誘惑の荒野におけるこのお方を見よ。四十日四十夜このお方は断食し、闇の主権者たちの最も激しい攻撃に耐えられた。このお方は、「ひとりで酒ぶねを踏んだ。もろもろの民のなかに」このお方と「事を共にする者はなかった」(イザヤ 63:3)。それはご自身のためではなく、サタンに奴隷として人類をとらえていた鎖を打ち破ることができるためであった。(ビュー・アンド・ワルド 1887年3月15日)

キリストがその人性において試練と誘惑に耐えることができるために、御父から力を求められたように、わたしたちもそうすべきである。わたしたちは罪なき神の御子の模範に従わなければならない。日々、わたしたちはあらゆる力の源なるお方から助けと恵みと力を必要としている。わたしたちは自分の無力な魂を、すべての危急時に助けようと待っておられるお方に投げ出さなければならない。あまりにもしばしば、わたしたちは主を忘れる。自己が衝動に明け渡され、わたしたちの得べき勝利を失ってしまう。

もしわたしたちが勝利者になりたいならば、悔い改めることや、わたしたちを有利な立場においてくれる許しを受け入れることを遅らせないようにしよう。もし、わたしたちが悔い改めて信じるなら、神からの清めの力はわたしたちのものである。このお方の救いの恵みは無償で提供されている。このお方の許しは、それを受けるすべての人に与えられる。……悔い改める一人びとりの罪人のために神の御使たちは歓喜の歌をもってよろこぶ。罪人は一人として失われる必要はない。救いの恵みの賜物は、十分であり、無償である。(天国で 50)

金銭なくして買われた

「わたしは、あなたがたがキリスト・イエスにあって与えられた神の恵みを思って、いつも神に感謝している。」(コリント第一 1:4)

自分の行ないによって神の恵みをえようと望んでいる者が多い。彼らは自分の無力なことを知っていない。彼らは価なくして与えられるたまものとして神のめぐみを受けず、自分の義をたてようと努力している。(キリストの実物教訓 221～222)

救い主は 贖罪愛によって与えられる幸福を高価な真珠にたとえておられる。(マタイ 13:45, 46) ……

たとえば、真珠を、賜物としてあつかっていない。商人は、持ち物を全部売って、それを買ったのである。キリストは、聖書の中では、賜物であると教えられているから、これは、どうしたことであろうと疑念をいだく人も多いことであろう。キリストは、たしかに賜物であることにちがいないが、それは、キリストに身も心も魂も全くささげるものに対してだけ与えられる賜物である。わたしたちは、自分をキリストにささげ、キリストのすべてのご要求に喜んで従う生活をしなければならぬ。わたしたちのいっさい、わたしたちの才能も力量もことごとく主のものであるから、それを主のご用にささげなければならぬ。自分を全く主にささげるときに、キリストは、天のあらゆる宝とともに、ご自身をわたしたちにお与えになる。わたしたちは、高価な真珠を所有するのである。

救いは無償で与えられる賜物であるが、また売買されるものでもある。神の恵みの支配下にある市場で高価な真珠は、金なく価なくして売買されるものであるといわれている。……

キリストの福音は、すべての者が持つことのできる祝福である。どんなに貧しい人でも、どんなに富んでいる人でも同じように、救いを買うことができる。これはどんなに地上の富を積んでも買えるものではない。喜んで神に従い、わたしたちを、キリストご自身があがなわれた所有としてキリストにささげることによって、得られるのである……。

わたしたちは、高価な真珠を求めなければならないが、それは、この世の市場やこの世の方法によるのではない。支払うべき価は、金や銀ではない。金銀は神のものである。自分は物質的に、靈的に恵まれた立場にあるから、救いを得られると思ってはならない。神は、あなたが心から服従することを求めておられる。(キリストの実物教訓 92～95)

神がお与えになる賜物はみな服従が条件となっている。神は神と力を合わせるもののために、あふれる祝福を天に備えておられる。(キリストの実物教訓 122)

すべての者に十分な恵み

「もし、ひとりの罪過によって、そのひとりをとおして死が支配するに至ったとすれば、まして、あふれるばかりの恵みと義の賜物とを受けている者たちは、ひとりのイエス・キリストをとおし、いのちにあつて、さらに力強く支配するはずではないか。」(ローマ 5:17)

神にはわたしたちの要求に応えようと待っている恵みと力が豊かにある。しかし、わたしたちがそれを非常に必要としていると感じない理由は、わたしたちがイエスではなく、自分自身を見ているからである。わたしたちはイエスを高めておらず、このお方の功績に全的により頼んでいない。(教会への証 5 巻 167)

なされた備えは完璧であり、キリストのとこしえの義は、一人びとりの信じる魂の勘定に記帳される。高価なしみのない天の織機で織られた衣が悔い改め信じる魂のために備えられた。そして、彼は次のように言うことができる、「わたしは主を大いに喜び、わが魂はわが神を楽しむ。主がわたしに救の衣を着せ、義の上衣をまとわせて」(イザヤ 61:10)。

信じる魂が罪から自由であり続けることができるように、豊かな恵みが備えられてきた。なぜなら、わたしたちの意のままに用いられるように、全天がその無限の資源と共に備えられたからである。わたしたちは救いの井戸から汲まなければならない。……自分たちのうちにあつては、わたしたちは罪人である。しかし、キリストのうちにあつては、わたしたちは義人である。キリストの着せられた義を通してわたしたちを義となさり、神はわたしたちを義人だと宣言され、義人として扱われる。このお方はわたしたちを愛しい子としてご覧になる。キリストは罪の力に逆らつて働いて下さり、そして罪があふれるところに、恵みはさらにあふれるのである。(セラフ・メッセージ 1 巻 394)

わたしたちは聖潔への道を登っていく際、日ごとに向上することができるが、なお、到達すべきさらに大なる高さを見出す。しかし、霊的な筋肉を伸ばすたびに、また心と脳に負荷をかけるたびに、わたしたちが前進するために不可欠である恵みの教訓が豊かであることが明らかにされる。

これらの富を思いみればみるほど、それらを所有するようになり、またキリストの犠牲の功績、このお方の義の保護、このお方の言い尽くせない愛、このお方の満ち満ちた知恵、そして御父の御前にわたしたちをしみじみその類のものがいっさいなく提示して下さるこのお方の力を、ますます表わすようになる。(天国で 34)

わたしたちは準備の日に生存している。わたしたちは神聖な倉から恵みの十分な供給を得なければならない。主は一日一日の要求のために備えをなして下さった。(同上 50)

不相応な恩寵

「主よ、あなたがその民を恵まれるとき、わたしを覚えてください。あなたが彼らを救われるとき、わたしを助けてください。」(詩篇 106:4)

恵みは価しない者への恩寵であり、信徒は自分自身の功績なしに、また神に申し立てる何の権利もなしに義認される。彼は罪人の身代わりまた保証人として天の宮のうちに立っておられるキリスト・イエスのうちにある贖いを通して義認される。しかし、キリストの功績のゆえに義認されるからといって、不義を行う自由はない。信仰は愛によって働き、魂を清くする。信仰は芽を出し、花を開き、貴重な実の収穫を実らせる。信仰があるところには、良いわざが現われる。病人は見舞われ、貧しい者は顧みられ、孤児ややもめはなごりにされず、裸な者は着せられ、困窮している者は養われる。

キリストは良い行いをしながら巡回された。そして人がこのお方と結合するとき、彼らは神の子らを受する。そして柔和さと真理が彼らの足を導く。顔の表情が彼らの経験を表わし、人々は彼らがイエスと共にいて、このお方から学んだ者であることを知るようになる。キリストと信徒は一つになり、そしてこのお方のご品性の麗しさが、力と愛の源であるお方と生きたつながりのある人々のうちに表わされる。キリストは義認する義と聖化する恵みの大いなる保管者であられる。

すべての人はこのお方の許へ来てこのお方の満ち満ちた徳を受けることができる。このお方は、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と言われる(マタイ 11:28)。……あなたは自分の信仰の創始者であり完成者であられるイエスを眺めてきたであろうか。あなたは真理と恵みに満ち満ちておられるお方を眺めてきたであろうか。あなたはキリストだけがお与えになることのできる平安を受け入れたであろうか。もしまだであれば、このお方に明け渡しなさい。そして、このお方の恵みを通して、高尚で高められた品性を求めなさい。継続的で、断固とした、快活な精神を求めなさい。命のパンであられるキリストに養われなさい。そうすればあなたはこのお方のご品性と精神の麗しさを表わすようになる。(セクレッド・メッセージ 1巻 398)

あなたができる最善のことであつても神の恩寵を受ける功績とはならない。あなたを救うのはイエスの価値であり、あなたを清めるのはイエスの血潮である。(教会への証 1巻 167)

キリストわれらの義

「神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられた」(ローマ 3:25)

キリストは「キリストわれらの義」と呼ばれておられ、信仰を通してわたしたちは各々「主はわれの義」と言うべきである。信仰がこの神の賜物をつかむとき、神の讚美がわたしたちの唇にのぼり、そして、わたしたちは他の人々に「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と言うことができるようになる(ヨハネ 1:29)。そのときわたしたちは失われている人々に、救いの計画、すなわち世が罪ののろいの下にあったときに、主が墮落し希望のない罪人に憐れみの条件を提示してくださり、ご自分の恵みの価値と意味を明らかにされたことを伝えることができる。恵みとは価しない者への恩寵である。……さまよい人であるわたしたちを探し求め、囲いに連れ帰るために、わたしたちの救い主を遣わしたのは、恵みであった。……

だれ一人として自らのうちを覗き込んで、自分の品性の中に、神へ自分を推奨し、あるいは確実に受け入れてもらえる何かを見出すことはできない。罪人が神のみ許へ行けるのは、ただ御父が世の命のためにお与えになったイエスを通してのみである。イエスだけがわたしたちの贖い主であり、わたしたちの弁護人であり、仲保者であられる。このお方のうちに、許しと平和と義のための、わたしたちの唯一の希望がある。罪に打たれた魂が健全さへ回復されることができるのは、キリストの血の功績によってである。……

キリストから離れては、わたしたちは何の功績も、義もない。わたしたちの罪深さ、弱さ、人間の不完全さは、わたしたちがキリストのしみのない義で覆われない限り、神の御前に出ることを不可能にしてしまった。……

あなたがキリストの引き寄せる力に応え、自らをこのお方に結びつけるとき、あなたは救う信仰を表しているのである。……信仰は魂を神の存在とご臨在に親しませ、そして、神の栄光だけに目を留めて生きることにより、ますますこのお方のご品性の麗しさ、このお方の恵みの卓越さを見分けるようになる。わたしたちの魂は霊的な力において強くなる。なぜなら、天の大気を呼吸しているからである。……わたしたちは万人にぬきんでたお方、ことごとく麗しいお方を眺めることによって、世を超越していく。そして眺めることによって、わたしたちはこのお方のみ姿へ変えられていくのである。(ヘレナ・メッセジ 1巻 331～335)

宗教の明るい側面

「わたしは主によって楽しみ、わが救の神によって喜ぶ。」(ハバクク 3:18)

神を愛する人は皆、このお方の恵みと真理の尊さについて証すべきである。真理の光を受ける人々は、沈黙しているのではなく、互いにしばしば語る教育をするために、教訓に教訓を重ねるべきである。彼らは神を愛し畏れる人々、またこのお方のみ名を思う人々が自分たちの考えを互いに語って表現する機会を持つことのできる安息日の集會を心に留めるべきである。……

天の大君は、信徒たちの環境がどれほどつましくても、彼らの関心事とご自分の関心事を同一視なさる。そして彼らが互いに集まる特権がある時はいつでも、しばしば互いに主のみ名を思う結果である感謝と愛を口にし、語り合うのがふさわしい。こうして神が耳を傾け聞かれる時に栄光を受けられ、証會はすべての集會の中で最も尊いものだと思われるようになる。なぜなら、語られる言葉が覚えの書に記録されるからである。……

自分の経験の暗い側面をくよくよと思い続けることによって敵を喜ばせてはならない。誘惑に抵抗するために助けを求めて、イエスにもっと完全に信頼なさい。もしわたしたちがもっと多くイエスのことを、自分自身についてはもっと少なく思い語るならば、はるかにもっとこのお方のご臨在を得るのである。もしわたしたちがこのお方のうちに宿っているならば、平安と信仰と勇氣に満たされ、集會に来るときに語るような勝利の経験を持ち、他の人々はわたしたちのはっきりとした力強い神のための証によって元気づけられる。神の恵みの栄光を讃えて認めるこれらの貴重な言葉は、キリストのような生活に支持されるとき、魂の救いのために働く抵抗できない力を持つ。宗教の明るく快活な側面は、日ごとに神に献身しているすべての人によって表されるようになる。わたしたちは嘆かわしく見える試練を悲しげに語ることによってわたしたちの主を辱めるべきではない。教育者として受けるすべての試練は、喜びを生み出す。宗教生活全体が、掲げ、高め、高尚させるものとなり、良い言葉とわぎに香るものとなる。(SDA バイブル・コメント [E.G. 初版] 4 卷 1183)

「ほふられた小羊こそは、ふさわしい」

「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい」(黙示録 5:12)

わたしたちは神の愛を受けるにふさわしくない。しかしわたしたちの保証人であるキリストはそれにふさわしく、また彼に来るすべての者を豊かに救うことができになるのである。(祝福の山 10)

キリストは一見希望のない素材、すなわちサタンが墮落させ、その人を通して働いてきた者たちを喜んで取り上げ、彼らをご自分の恵みの対象とされる。このお方は喜んで、不従順な者に降りかかる苦しみと怒りから、彼らを救出して下さる。(教会への証 6 巻 308, 309)

もし、敵が、失望した者の目をイエスからそらして自分たちをながめさせ、彼らに、イエスの尊さ、イエスの愛、イエスの功績、イエスの大きなあわれみなどを考えるかわりに、自分たちの無価値なことを考えさせることができるならば、彼は、彼らから信仰のたてを奪い去って、自分の目的を達成することができる。人々は、敵の火のような攻撃にさらされる。であるから、弱い者は、イエスを仰いで、イエスを信じなければならぬ。その時、彼らは信仰を働かせるのである。(初代文集 153)

神のみ子は、すべてのものを一いのちと愛と苦しみとを一わたしたちをあがなうためにお与えになった。こうした大きな愛の対象としてはあまりに無価値なわたしたちが、自分の心を神にささげないでいられるであろうか。わたしたちは、生涯の一瞬一瞬、キリストの恵みをこうむって生きてきた。わたしたちは、どのような無知と悲惨のどん底から救われたかを自覚していないのである。(キリストへの道 57)

多くの人々は自分たちの宗教生活において、自分の感情に注意を留め続け、それによって自分たちが進歩しているか退化しているかを判断することによって、深刻な過ちを犯している。感情は安全な基準ではない。わたしたちは自分たちが神に受け入れられた証拠として内側を見るべきではない。そこには失望させるようなものしか見出すことがない。わたしたちの唯一の希望は、「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見」ることにある(ヘブル 12:2)。このお方のうちには、希望と信仰と勇気を鼓舞するすべてのものがある。このお方がわたしたちの義であり、慰めであり、喜びである。……

自分たちの弱さと無価値さの自覚が、心のへりくだりをもってキリストの贖罪の犠牲を嘆願するよう導くべきである。わたしたちがこのお方の功績により頼むとき、休息と平安と喜びを見出す。このお方はご自分によって神のみ許へくるすべての人々を最高にまでお救いになる。(教会への証 5 巻 199, 200)

奥義の中の奥義

「確かに偉大なのは、この信心の奥義である、『神は肉において現れ、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた。』」(テモテ第一 3:16 英語訳)

なんという奥義の中の奥義であろう! 理性がキリストの大権と、贖いの奥義を把握するのは難しい。恥辱の十字架が立てられ、釘がこのお方の手足に打ち込まれ、残酷なやりがこのお方の心臓を刺し通し、そして贖いの代価が人類のために支払われた。……

贖いは尽きぬ主題であり、わたしたちの最も綿密な熟考に価する。それは、最も深い思想、最も生き生きとした想像力の及ぶ範囲を超えている。……

もしイエスが今日、わたしたちと共におられたら、弟子たちに言われたように、わたしたちに「わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今それに堪えられない」と言われるのであろうか(ヨハネ 16:12)。イエスはご自分の弟子たちの思いの前に、深く生き生きとした真理を開きたいと切望されたが、彼らの世俗、彼らの曇った不十分な理解力がそれを不可能にした。……霊的な成長の欠乏が、キリストから輝く豊かな光線に対して戸を閉じる。……

喜んで神のみ言葉の鉱山を探り、真理の豊かな鉱脈、すなわち代々にわたって隠されてきた神聖な奥義の中に貴重な鉱石を発見した人は、自分たちの品性のうちに彼らの信じるもの聖化させる力を表わすことによって、主イエス、すなわちあらゆる真理の源であられるお方を高める。イエスとその恵みは、魂の内なる聖所のうちに奉じられていなければならない。そのとき、このお方が言葉に、祈りに、訓告に、聖なる真理の提示に表されるようになる。(セクレット・メッセージ 1 巻 403 ~ 405)

十字架の奥義は、他のすべての奥義を説明する。カルバリーから流れ出る光に照らして見るとき、われわれのうちに恐怖と畏敬の念を満した神の属性は、美しい、人を引きつけるものに見える。あわれみ、やさしさ、父としての愛情が、聖潔、公平、力と入りまじって見える。われわれは、高くかかげられた神のみ座の威光をながめる一方では、神のご品性の恵み深いあわれみを見て、「われらの父よ」というあの永遠に続く称号の意味を、いままでになく理解するのである。(各時代の争闘下巻 434)

無尽蔵の富

「すなわち、聖徒たちのうちで最も小さい者であるわたしにこの恵みが与えられたが、それは、キリストの無尽蔵の富を異邦人に宣べ伝え」（エペソ 3:8）

神の恵みの富が、地上の人びとに流れないのは、神の側に何か制限があるためではない。喜んで受けさえするならば、だれでも聖霊に満たされるのである。

神の恵みの富、はかり知ることのできないキリストの富を世界に伝えるための神の生きた通路になるという特権は、だれにでも与えられている。キリストは、他の何ものにもまして、キリストのみ霊と品性とを世界に代表する器があらわれるのを望んでおられる。人間によって救い主の愛があらわされることほど、世界が求めているものはない。人の心に喜びと祝福を与える清い油を注ぐことができる管を、全天は待っているのである。（キリストの実物教訓 394, 395）

「あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし…… キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。それは、キリスト・イエスにあってわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった」（エペソ 2:4～7）。

これが、年老いた「キリスト・イエスの囚人」であるパウロが、ローマにある自分の牢獄から、自分の兄弟たちの前にその満ち満ちたもの、すなわち表現するのにふさわしい言葉を見出すことのできない「キリストの無尽蔵の富」、墮落した人類の子らに無償で差し出されている恵みの宝を示そうと努めた言葉であった。（教会への証 5 卷 730）

あなたは魂が神を慕うにつれて、その恵みの無尽蔵の富をますます知るようになる。この富について瞑想すると、この富があなたの手にはいり、キリストの犠牲の功績と、その義の擁護と、その知恵の豊かさ、そしてあなたを天父の前に「しみもなくきずもな」い者として差し出して下さるみ力とが明らかになる（ペテロ第二 3:14）。（患難から栄光へ下巻 270）

「どんなに大きな愛か、よく考えてみなさい」

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。」(ヨハネ第一 3:1)

キリストのうちにあらわされ、人類の上にあふれ出た天からの愛の流れは、天の父のみ心から出たものである。……神は、恵みと真理に満ちたもうひとり子を、栄光に輝くみ国より罪にそこなわれ死とのろいに暗くとぎされたこの世にくだされたのである。神は、イエスが愛のふところを離れ、天使たちの賛美の声をあとにして、苦しみと恥、無礼、屈辱、憎しみ、はては死さえ受けることをおゆるしになった。……罪の重荷、罪の恐ろしさ、神から遮断されることなどが神の子の心を砕いたのであった。……

神はみ子と共に苦しみになった。ゲッセマネの苦しみ、カルバリーの死を通し、限りない愛をもちたもう神はわたしたちのあがないの価をお払いになったのである。……墮落した人類のためにキリストが払われた限りない犠牲ほど、失われた人類に対する神の愛をあらわすことのできるものはない。……

わたしたちのあがないのために払われた価、わたしたちのためにそのひとり子に死をさえおゆるしになった天の神の測り知れない犠牲を考えると、キリストによってわたしたちがどのような者になることができるかという高められた観念をおこさずにはいられない。靈感に動かされた使徒ヨハネは、滅びゆく人類への天の父の愛の高さ、深さ、広さをながめて、心はただありがたさと敬けんの念でいっぱいになり、その愛の偉大さ、優しさを適当に表現する言葉を見いだすことができないで、その愛を見るように世界に呼びかけている。……人はなんと尊い価値をもっていることであろうか。罪を犯して人の子らは悪魔のどれいとなったが、キリストのあがないの犠牲を信ずることによって、アダムの子らはまた神の子となることができるのである。キリストは人の性情をおとりになって人類を引き上げてくださった。罪に落ちた人類は、キリストにつながってはじめて「神の子」という、その名にふさわしい尊い者となれるのである。

このような愛に比べうるものはなにもない。天の王子となるというのである。なんと尊いみ約束であろうか。これは深い瞑想に価する主題である。神を愛さなかった人類へのたぐいもない神の愛である。(キリストへの道 7～12)

天はどれほどの間、耐えなければならぬか

「わたしと父とは一つである。」(ヨハネ 10:30)

神ご自身がキリストと共に十字架につけられた。なぜなら、キリストは御父と一つであられたからである。(SDA パイブル・コメント [E.G. 叔ト・コト] 5 卷 1108)

罪のために創造主が受けられた苦しみを思う人は非常に少ない。全天はキリストと苦しみを共にしたが、しかしその苦悩はキリストが人性をとって現われたときに始まったのでもなければ終わったのでもない。十字架は、罪が初めてあらわれたときから神の心に生じた苦痛を、われわれの鈍い感覚に示すものである。人が正しいことから離れるたびに、残酷な行ないをするたびに、人性が神の理想に到達できないたびに、神は悲しまれるのである。イスラエルが、神から離れた当然の結果として、敵に征服され、残酷と死という災難がふりかかったとき、「主の心はイスラエルの悩みを見るに忍びなくなった。」「彼らのすべての悩みのとき、主も悩まれて、……いにしえの日、つねに彼らをもたげ、彼らを携えられた」(士師記 10:16; イザヤ 63:9) と言われている。

神のみたまは「みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さる」とある。「被造物全体が、……共にうめき共に産みの苦しみを続けている」(ローマ 8:26, 22) とき、限りない天父のみ心は同情に痛むのである。この世界は広いラザロの家(注・貧しい病人の収容所)のようなもので、われわれはその悲惨な光景を心に思うことすら苦痛である。その現実の姿をみつめるとき、重荷はあまりに大きいであろう。しかし神はそのすべてを感じておられるのである。(教育 311, 312)

ため息が出るたびに、苦痛を感じるたびに、魂が悲しみに刺されるたびに、その心のうずきは天父の心に伝わるのである。(各時代の希望中巻 90)

世の悲惨と絶望の深さをご存知であるキリストは、同時にその救済の方法もご存知である。……人類は恵みを悪用し、才能を浪費し、神のごとき人間としての品位を失ってはいるが、しかし人類の救済を通して、創造主は栄光をうけなければならない。(教育 319)

神は、罪とその結果を減ぼすために、最愛のひとり子をあたえ、み子との協力によってこの悲惨な光景を終わらせる能力をわれわれにお与えになっている。(教育 312)

正しく訓練されたわれらの青少年たちから成るこのような働き人の軍勢があたえられるとき、十字架につけられ、よみがえり、まもなくおいでになる救い主の使命は、いかにすみやかに全世界に述べ伝えられることであろう。いかにすみやかに終わりが一苦難と不幸といかにすみやかに終わりが一苦難と不幸と罪の終わりが、もたらされることであろう。(教育 320)

研究 2

最後の出来事



「恩恵期間の終了」

The close of probation

今回は「恩恵期間の終了」という主題をもって、この時代に住んでいるすべての者に与えられた神のみ言葉とその意味を調べてみましょう。

恩恵期間 (Time of Probation) とは何でしょうか? 恵みの期間、もしくは執行猶予の期間の「期間」とは何を意味するのでしょうか? 執行猶予とは刑罰の宣告を下されたとき、情状を酌量して、その執行までにある一定の期間を猶予し、その間何の罪も犯さず、無事に過ごすならば、刑罰の宣告がなかったことにし、もはやそれ以上刑罰を下さないという制度のことです。罪人になんらかの徳があるからではなく、恵みによって与えられる賜物です。

「不従順のために、…人間は死ななければならない身となった。しかし人類は、望みのない状態のままに捨ててはおかれなかった。限りのない愛とあわれみによって、救いの計画が立てられ、生命の猶予が与えられたのである」(教育4, 5)。「アダムとエバは、大きな罪を犯したにもかかわらず、…彼らに恵みの期間が与えられ」(人類のあけぼの上巻 58)。「救い主の犠牲を通して、今恵みの期間に生きているわたしたちは、望みのある囚人なのである。」(列対々教育の基礎 370)。

「わたしの恵みはあなたに対して十分である」(コリント第二 12:9)。

「人類が大きな罪を犯したにもかかわらず、サタン絶対的な支配下に置かれるように、キリストを通して望みのとびらが開かれた。神のみ子の功績を信じることによって、人は高められてサタンの策略に抵抗することができる。恩恵の期間が与えられ、その間に悔い改めて神のみ子の贖罪を信じる信仰の生涯を送ることによって、人間は、天父の律法を犯したことからあがなわれ、神の律法を守ろうとする努力が受け入れられる立場にまで高められることになった」(生き

残る人びと 61)。

1. この恵みの期間はどれほど長く続くのだろうか？

「わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。神はこう言われる、『わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞き入れ、救の日にあなたを助けた。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である』(コリント第二 6:1,2)。「わたしたちの恵みの時は、将来ではなく、今である」(管理職への勧告 22)。

「今は恵みの時である。今は救の日である。今、今こそ神の時なのである」(教会への証 2 巻 102)。

「わたしたちは地上歴史の最後の時代に住んでいる。預言は速やかに成就しつつある。恵みの時は速やかに過ぎ去っている。わたしたちにはただの一瞬でも失う余裕はない」(教会への証 8 巻 252)。

「尊い恵みの時は過ぎ去っているが、これが永遠のために準備するようにと彼らに与えられた尊い時であることを悟っている者はほとんどいない」(教会への証 4 巻 147)。

「わたしたちがすべてのあがなわれた群れと共に、金の立琴を手にして金の冠をかぶり、永遠という広大さを前にしてガラスの海のそばに立つ時、わたしたちは猶予期間がなんと短い期間であったかを知るであろう」(教会への証 5 巻 485)。

「毎日わたしたちは裁きを受ける男女と交わっている。ある魂にとって、その日が境界線となるかもしれない。ある者は自分の将来の運命を決める決断をしたかもしれない」(教会への証 5 巻 466)。

「われわれの回りには、ソドムに臨んだのと同じように、希望なく恐ろしい破滅に陥っている魂がある。毎日、だれかの恵みの期間が閉じている」(人類のあけぼの上巻 142)。

「神はその測り知れない愛のゆえに、あなたにもう一度試練をお与えになる。あなたのうちに、なにか善や徳があるからではなく、神ご自身のあわれみのゆえに、信仰の祈りにお答えになるのである。あなたが過去の時間を償い、あなたの品性の欠陥を克服し、神があなたにお求めになる献身を、あなたが生活を通して示す機会を得ることができるようにあなたに恵みの期間が延長されているので

ある」(教会への証 4 巻 216)。

「恩恵期間の貴重な時間の終わりは迫っている」(クリスチャンの奉仕 108)。

「恩恵期間の終りの年月が永遠に過ぎ去りつつある」(管理職への勧告 35)。

「わたしたちには時間の猶予がない。恵みの期間がいつ終わるかわからない。どんなに長く見積もっても、この世の生涯は短く、いつ死の矢が心臓をつらぬくかわからない」(ミストリー・オブ・ヒーリング 436)。

「あなたはあなたと永遠との間にある間隔がどんなに狭いかを知らない。あなたは恵みの期間がどれほど速やかに閉じるかを知らない」(教会への証 4 巻 53)。

2. 恵みの期間中に成し遂げること

自分や他人、また世の恩恵期間がいつ閉じるかを知っている人は一人もいません。

もちろん、これは厳粛な事実ですが、この恩恵期間、すなわち罪人に与えられた執行猶予の期間中に、どんな生涯を送るべきか、またどんな標準によって審判が行われるかを知ることは、重要かつ厳粛なことです。特に終わりの時代、調査審判の時に住んでいるわたしたちは、天の至聖所をながめて、その標準を理解しなければなりません。

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい」(ピリピ 2:12)。

「愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか」(コリント第二 7:1)

「わたしは幻の中で、至聖所へ連れて行かれた。そこで、わたしは、イエスがなおイスラエルのために執り成しておられるのを見た。彼の衣のすそには、鈴とぎくろがついていた。それから、すべての者の運命が、救いかまたは滅びかに決定されるまで、イエスは至聖所から出られないこと、また、イエスが至聖所における働きを終了し、彼の祭司の服を脱いで、報復の衣をまといわれるまでは、神の怒りが下らないことを、わたしは見た」(初代文集 96)。

「イエスは彼の聖なる神殿におられて、今、われわれの犠牲、われわれの祈り、われわれの過ちと罪の告白を受け入れられる。そして、彼が聖所を去られる前に、イスラエルのすべての罪をゆるして、消し去られるのである」(初代文集 114)。

「あなたは今、恵みの期間に、あなたの早急な性質に打ち勝たねばならない。さも無いと共に、神から離れるようになる」(教会への証 2 巻 430, 431)。

「魂と肉体は、神のものである。神は世のあがないのためにみ子をお与えになった。このゆえに、わたしたちは生命が延ばされて、欠点のない忠実な品性を発達させるための期間が与えられているのである。神は、わたしたちを罪の奴隷から救い、わたしたちが生まれ変わって、一変した奉仕の生活を送ることができるようにしてくださったのである」(青年への使命 58)。

「神はすべての者にご自分の言葉を与えて、それを調べ、命への道を学ぶことができるようになされた。…永遠の命のために品性を形成することができるように、すべての者に恵みの期間が与えられている。すべての者に生か死かを選ぶ機会が与えられている」(教会への証 2 巻 691)。

「自己が死ななくてはならない。キリストがあなたの内に生きて、あなたの内にあって永遠の命へと湧きあがる泉となられねばならない。あなたには今、年齢が進んだ段階においてさえ正しい品性を形成するようにと与えられた尊い恩恵期間がある。…あなたのあわれむべき、またうぬぼれのつよい自己を義とする心を神のみ前で低くしなさい。この方の足元であなたの罪深さのうちにすべて砕かれ、低く、とても低くなりなさい。準備の働きに自分を捧げなさい。真に次の言葉を言うことができるまで休まないようにしなさい。『わたしのあがないの主は生きておられる。また、彼が生きておられるから、わたしも生きるのである』」(教会への証 2 巻 88)。

「わたしたちに猶予の期間が与えられたのは、わたしたちが永遠のための品性を完成することができるためである」(ヘブライ・メッセージ 1 巻 318)。

「貴重な恵みの期間は、あなたがたのあらゆる品性の欠点を取り除くために与えられたのである」(両親、教師、生徒への勧告 225)。

「神の御使いたちは道徳的価値を測っている。彼らは今生きている人々の品性の発達を見守っており、彼らの名が命の書に残ることができるかを見守っている。恵みの期間はわたしたちが品性の衣を小羊の血で洗い、それを白くするために与えられたのである。だれがこの働きをしているのか。だれが罪と利己心から分離しているだろうか」(SDA パイブル・コメント [E.G. 柯ト・コト] 7 巻 960)。

「恵みの時が終わる前、生きている義人たちは、神の印を受けるのである」(ヘブライ・メッセージ 1 巻 66)。

3. 恵みの期間の終わり

「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ。見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」(黙示録 22:11, 12)。

「イエスが聖所を去られると、聖であつて義なる者は、聖で義なるままである。なぜなら、そのとき彼らのすべての罪は消し去られて、生ける神の印を押されているからである。しかし、不義で汚れた者たちは、不義で汚れたままである。なぜならば、そのとき、彼らの犠牲、彼らの告白、彼らの祈りを、父なる神のみ座の前にささげる祭司がないからである。それゆえに、来るべき怒りのあらしから人々を救うためになすべきことは、イエスが天の至聖所を去られる前にしなければならない」(初代文集 114, 115)。

「マタイによる福音書 22 章のたとえにおいて、同じ婚宴の象徴が用いられ、婚宴に先だつて調査審判が行われることが明示されている。婚宴に先だつて、王は、すべての客が、礼服、すなわち、小羊の血で洗って白くしたしみのない品性の衣を着ているかを見るために入られる(マタイ 22:11, 黙示録 7:14 参照)。欠けていることを発見された者は、追い出されるが、調査の上で礼服を着ていることが認められたすべての者は、神に受け入れられ、み国と神のみ座にあずかるに足る者と見なされるのである。品性を調査し、だれが神の国に入る準備をしたかを決定するこの働きが、調査審判の働きであり、天の聖所における最後の働きなのである。調査の働きが終わり、各時代においてキリストに従う者であると称してきた人々の調査と決定がなされた時、そのとき初めて、恩恵期間が終わり、恵みの扉が閉じられる」(各時代の争闘下巻 145)。

「1844 年に始まった審判の働きは、生きている者も死んだ者も、すべての者の運命が決定されるまで継続しなければならない。したがって、これは、人類の恩恵期間の終りまで続くのである。…審判に対する備えをするためには、人は神の律法を守らなければならない。その律法が、審判の時の品性の規準となるのである」(各時代の争闘下巻 154)。

「調査審判の働きが終わるとき、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。恩恵期間は、主が天の雲に乗って来られる少し前に終了する」(各

時代の大争闘下巻 225)。

「その時が来ても、義人と悪人は、その死ぬべき肉体のままで、地上で生活をしている。天の聖所では、最終的で取り消すことのできない決定が宣告されたことも知らずに、人々は、植えたり、建てたり、飲んだり、食べたりしている。洪水の前に、ノアが箱舟に入った後で、神は彼を舟の中に閉じ込め、神を恐れないう人々を外に閉め出されたのである。しかし、人々は、7日の間、彼らの運命が決定されたことも知らずに、不注意な放縦の生活を続け、差し迫った審判の警告をあげたのであった。『人の子の現れるのも、そのようであろう』と救い主は言われる(マタイ 24:39)。真夜中の盗人のように静かに、人に気づかれずに、すべての人の運命が定まる決定的な時、罪人に対する恵みの招きが最終的に取り去られる時がやって来る」(各時代の争闘下巻 225)。

「『だから、目をさましていなさい。…あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない』(マルコ 13:35, 36)。

「目をさまして待つことにうみ疲れ、世俗の魅力に心を向ける人々の状態は、実に危険である。実業家が利益の追求に心を奪われ、快楽の愛好家が楽しみにふけり、流行を追う女性が身を飾っているその時に、全地の審判者が、『あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた』という宣言をなさるかもしれないのである(ダニエル 5:27)。」(各時代の争闘下巻 225, 226)。

「わたしは、第三天使のメッセージが終わろうとしている時をさし示された。…そこで聖徒の数が数えられて封印された。…各人の判決は生か死かのいずれかにきまっていた。イエスが聖所で奉仕しておられた間に、審判は死せる義人から次に生ける義人へと続けられていたのである。…み国の民はもうできあがっていた。…その時は、もう、不義な人類と神の怒りとの間には仲保者がおられない。…サタンは、最後まで悔い改めない人々を完全に支配するようになった。…もう神の怒りをとどめる何もものもなく、それは、これまで救いを軽んじ、譴責を憎んできた不義な罪人の、おおいなき頭上に激しく破裂した」(初代文集 451～453)。

「イエスは滅ぶべき都のために苦しんで泣かれたが、エルサレムを救うことがおできにならなかった。主はありとあらゆる手段をつくされた。神の御霊の警告を拒むことによって、イスラエルは、唯一の助けの方法を拒んだ。彼らを救うことができる力は他になかった。…主はきょうあなたに語られる。平和をもたらす道

を知っているべき者は『あなた』である(ルカ 19:42 参照)。自分自身のために涙を流さないあなたのために、キリストは苦い涙を流しておられる(各時代の希望下巻 25～27)。

なんというキリストの驚くべき愛とあわれみなのでしょう! ありとあらゆる手段をつくされて、昏睡状態にあるわたしたちの靈的感覚を目覚めさせようとしておられる愛の救い主を仰ぎ見て下さい。今日も天の至聖所で、『罪人のためにもう少し待って下さい!』と天の父に向かって手をあげられ、ご自分が彼らのために血を流されたことを訴えられ、罪人のために執り成しをしておられる救い主のことを考えてください。救い主の恵み深き招きはこの瞬間もあなたに伝えられています。罪によって死ぬべき運命となりましたが、人類の、そして皆様と私をあわれんで、量り知れない愛のゆえに身代わりとなって死に渡され、新しい生きた道を開いて下さった救い主、「死んではいけない、生きよ!」と叫んでおられるイエスを仰ぎ見て生きましょう。この恵みの時こそ愛の時であり、あわれみの時であり、命の時です。キリストの愛に屈伏してわたしたちの命がキリストと共に神のうちに隠されますように、また神の御助けによってわたしたちに次の言葉が成就することのないようにと祈っております。

「刈入れの時は過ぎ、夏もはや終った、しかしわれわれはまだ救われない」(エレミヤ 8:20)。

(48 ページの続き)

は言うことを聞きませんし、感謝もしなければ、きよくありません。そのような青年は、生まれつきどんなに才能(さいのう)があろうと、知恵が加わることなく、神と人から愛されることがありません。

青年は、自分自身の楽しみをおいもとめることによって、幸せをみつけられると思うかもしれませんが、その道をたどっているあいだは、決して幸せを自分のものにするにはできません。救い主は、自分をよるこぼせるために生きられませんでした。わたしたちは、このお方が「よい働きをし」ておられたことについて読みます。このお方は、奉仕(ほうし)を愛し、悲しんでいる人をなぐさめ、困っている人をたすけ、うなだれている人をおこしてあげる生活をおくれました。この世にはご自分の家がなく、ただ友だちが親切に、お客さんとしてとめてくれる家があるだけでした。それなのに、このお方がいらっしゃると、そこは天国でした。日々、このお方は誘惑(ゆうわく)と試練(しれん)にあわれましたが、くじけたり、がっかりしたりなさいませんでした。このお方は罪人にかこまれていましたが、ご自分はみ父のいましめをまもられました。このお方はいつもがまんづよくはつらつとしていたので、苦しんでいる人は、このお方を命(いのち)と平安と健康の使者(ししゃ)としてかんげいしました。……

キリストはご自分の一生の働きの中で、わたしたちになんというすばらしい模範を残してくださったことでしょう。このお方の子らの中で、キリストのように、神の栄光(えいこう)のために生活している人は、だれでしょうか?……

キリストの模範に従うことによるのみ、わたしたちはほんとうの幸せをみつけることができます。……

若い友人の皆さん、神と人に愛されて成長するためには、キリストがあなたに残された模範に従わなければならないことをおぼえてください。このお方はあなたを愛しておられます。だからこそ、あなたにどうやって、きよいまことの生活をおくるかをしめすために天からこられたのです。このお方は子どもや青年の試練やかなしみをぜんぶ知っておられます。このお方もかつてはあなたと同じ年だったのです。あなたにくる誘惑や試練は、このお方にもきたのです。あなたにおとずれるかなしみは、このお方にもありました。しかし、このお方は決して誘惑にまけませんでした。このお方の生活には、きよくないもの、気高(けだか)くないものは、なにもありませんでした。このお方が、あなたの助け手であり、あなたのあがない主なのです。(1-ス・イストラク- 1901年8月22日)

ココナッツスノーボール

材料

薄力粉	150g
ふすま	大さじ 1
粗糖	50g
ココナッツパウダー	30g
サラダ油	60g
キャラブパウダー	仕上げ用

作り方

1. 粉をボウルにふるい入れます。ココナッツパウダーを加え、泡だて器でだまをなくすように良く混ぜます。
2. ボウルにサラダ油を加えて、手で押すようにしながら1つにまとめます。この時、こねずに、押すようにしていけばまとまってきます。オーブンを160度に予熱します。
3. 2の生地を27～30等分して丸め、天板に少し間を開けて並べていきます。余熱完了のオーブンに入れて160度、18分ほど焼きます。
4. 焼き上がったら、そのまま冷まします。くずれやすいので、冷めるまでそのままにしておく方が良いと思います。

完全に冷めたら、キャラブの粉をまぶして、仕上げです。
口の中でほろっとくずれる焼き菓子です。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教：11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

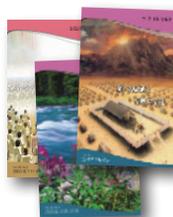


書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



最高の理想

「御足の跡を踏み従うようにと……」（ペテロ第一 2:21）

キリストは……子ども時代、青年、そして大人のために**完全な模範**（もはん）を残されました。このお方はこの地上に来られ、人生のいろいろな時期を経験されました。このお方は悪いことをしなかった、ということ以外は、ほかの子どもや青年たちと同じように話し、行動しました。このお方の生活には、罪の場所がありませんでした。いつも、キリストは天国の純潔（じゅんけつ）なふんいきの中に住んでおられました。……

家庭の聖所（せいじょ）において、イエスは親からばかりではなく、天のみ父からも教育を受けられました。成長するにつれ、神はイエスの前にますます大きな働きをあきらかになさいました。しかし、それを知っておられたにもかかわらず、イエスはえらそうな様子をしませんでした。イエスは決して、失礼なことをして、親の心をいためたり、心配させたりなさいませんでした。このお方は親をととび、従うことをよろこばれました。このお方はご自分の大きな使命（しめい）を知らなかったわけではありませんが、親のねがいを聞いて、その権威（けんい）に従いました。

キリストは天の万軍（ばんぐん）の司令官（しらいかん）であられましたが、そうだからといって、働かないですませたりせず、親のたすけをお受けになりました。まだ、とてもおさない時から、手仕事をおぼえて、忠実（ちゅうじつ）にご自分の日々の義務（ぎむ）をはたし、家庭の生活費をたすけました。

キリストは家庭の輪の光であり、よろこびでした。どれくらいの子どもや青年が、**キリストのように一親切で、思いやりふかく、従順**（じゅうじゅん）になろうとしているでしょうか？どれくらいの人が、このお方の模範に従うことによって、自分の品性（ひんせい）をすかれるものにしようとしているのでしょうか。そうしようとする人は、神と人から愛（あい）されるようになります。

今日、キリストと青年には、大きな違いがあります。多くの青年たちは、おちつきがなく、利己的で、親は子供のためにいっしょうけんめい働いているのに、自分たちはなまけて日を過ごしながら、満足しています。彼ら